

調査・研修等計画届出書

令和 5年 10月2日

瀬戸市議会議長 様

議員名 颯田 季央

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 5年10月11日から10月13日まで（2泊3日）	
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察	
会場名（会場所在地）	岩手県洋野村視察・岩手県田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	岩手県洋野村視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて	
議長名の依頼	要・ <input type="checkbox"/> 不要	依頼先（名称）
同行者名	富田 宗一・小澤 勝・西本 潤・三木 雪実・宮薊 伸二・ 高島 淳・朝井 賢次・山内 精一郎・黒柳 知世	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 5 年 10 月 21 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 颯田 季央

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 5 年 10 月 11 日から 10 月 13 日まで (2泊3日)
調査先・研修名	青森県八戸市周辺視察
会場名 (会場所在地)	岩手県洋野村視察・岩手県田村視察 青森県八戸市美術館視察・青森県おいらせ町視察
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	岩手県洋野村視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 岩手県野田村視察 ・野田村復興展示室 青森県八戸市美術館視察 ・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応 青森県おいらせ町視察 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
【岩手県洋野村 視察・研修】 ・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて 資料を基に当時の状況とその後の取組みについて説明を受ける。 (事業概要) 防潮堤の再整備・陸閘の自動化・避難階段整備・避難路の街頭整備・通信体制整備・停電、燃料対策・食料備蓄・被害を受けた建物の整備 (現状) がれき撤去、八木南陸閘、防潮堤のかさ上げ等整備完了・消防署、八木防災センターの高台へ移設・漁業関連施設の復旧や稚ウニ放流などの養殖の再開、災害公営住宅整備・JR 八戸線復旧開通・防災無線、衛星携帯電話など通信設備整備、発電機や電気自動車を有する自動車会社と災害協定、防災訓練の定期実施など	

(課題)

ハード面の予定されている整備はほぼ完了したが、自然の驚異は人間の想定を超えるため十分とは言えない。その時、その場で適切な行動をとれるように、物や気持ちを日々の備えることや、忘れないように促すことが課題。また、心の傷がいてはいないのでその点のフォローも課題。食料備蓄の消費記期限も課題である。

(視察場所)

川尻地区防潮堤・陸閘・慰霊碑を視察



防潮堤



防潮堤の上から



慰霊碑

【岩手県野田村 視察】

・東日本大震災からの復旧・復興の取組みについて

野田村復興展示室や資料・ビデオを基に当時の状況とその後の取組みについて説明を受ける。

(事業概要)

防潮堤の再整備・多重の防潮堤・都市公園を津波の際の緩衝地として整備・避難路の街頭整備・通信体制整備・停電、燃料対策・食料備蓄・被害を受けた建物の整備、産業再生・新たな産業の取組み・賑わいの創出等

(現状)

がれき撤去、防潮堤のかさ上げ、盛り土等3重の防波堤整備完了・消防署、団地・住宅の高台へ移設・漁業関連施設の復旧・防災無線、衛星携帯電話など通信設備整備、ワイナリーの開所、野田バイオマス発電所・被災状況確認や防災の意識を高め確認をするジオラマ作成や訓練の定期実施など

(課題)

ハード面の予定されている整備はほぼ完了した。被災時に内陸の市町が支援の中継地点となってくれたことで助かったため、内陸の市町との連携をどのように進めるかが課題。

(視察場所)

野田村復興展示室とその周辺の被災地区



被災時の写真



ジオラマ



復興展示室

【青森県八戸市美術館 視察】

・学校、企業などの連携と効果、アートを通じてのまちづくり、イベント等における市民の反応について資料を基に説明を受け・見学を行った。

(事業概要)

文化芸術の拠点とアートまちづくりの中核施設として新美術館の建て替えを行い、2021年11月に開館した。工事費約32億円

(現状)

第4世代の「みる」から「つかう」美術館として、「もの」を展示するだけでなく、その場所で「ひと」が活動し「こと」「もの」を生み出す過程も作品として認識してもらう美術館である。小中高大学、学芸員と連携して教育ツールやプログラム、イベントなどアートを通して地域を作っていく拠点となっている。

(課題)

開館間もないため使いながら修正し、経験をつんでいる状況である。ジャイアントルームの使用方法や、収納など模索中である。

(視察場所)

八戸市新美術館



ジャイアントルーム研修



ジャイアントルーム2階から



屋外での音楽イベントとの連携

【青森県おいらせ町 視察】

・東日本大震災からの復旧・復興の取り組みについて

町内の整備地を見学しながら取り組みについて説明を受ける。

(事業概要)

津波監視カメラ・防潮堤の再整備・陸閘・水門整備・一時避難所・避難路、階段の整備、街頭整備・通信体制整備・停電、燃料対策・食料備蓄・被害を受けた建物の整備等

(現状)

がれき撤去、防潮堤のかさ上げ、防波堤整備完了・防災無線、衛星携帯電話など通信設備整備、防災備蓄や発電機用意、津波監視カメラの設置、百石道路斜面を利用した避難階段、明神山防災タワー（鉄筋コンクリート4層2階建て、海拔23m）、防災訓練の定期実施など

(課題)

ハード面の予定されている整備はほぼ完了した。海岸線に工業団地があり、日中は数千人が勤務している。海岸線から高台に避難できるよう階段を整備したが、迅速に避難できるように訓練が必要である。また、令和4年に発表された日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の津波に対しては対応不十分な箇所があるので、どこまで対策を進めるかが課題。

(視察場所)

百石道路斜面避難階段、各所避難階段、百石海岸防潮堤、水門、陸閘、明神山防災タワー、おいらせ町役場で津波カメラの操作確認とその周辺の被災地区



津波カメラの映像



明神山防災タワー



百石道路斜面避難階段

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

【岩手県洋野村】

(主な質疑・応答内容)

質問① 洋野村は死亡・行方不明者が0だったがその要因を伺う。

応答内容：昼間の発災だったことや、運が良かったと感じられることは多々ある。明治29年と昭和8年に津波被害にあっており、慰霊碑を立て慰霊祭を行い、防災意識を高めるとともに、教訓を生かした対策と訓練を震災前から行っていた。自主防災組織や消防団の活動も活発で発災時にどのように行動するのか徹底され、地域全体での協力体制ができていた。

質問② 復興を早められた要因について伺う。

応答内容：人的被害がなかったことで、重機を早期から使用できたこと。復興計画を3年毎

に2段階に分けて6年計画で計画的に取り組めたこと。

(受講後の感想)

施設やハード面の整備は終わったが、心の傷が癒えることはない。過去の教訓を生かした対策や、住民の防災意識や組織の連携等が、人的被害0人につながり、早期の復興につながったと学ぶことができた。今の出来事を将来に残すことの重要性も感じる事ができた。

【岩手県野田村】

(主な質疑・応答内容)

質問① 被災時に重要と感じたものについて伺う

応答内容：津波から避難する意識はもちろんのこと、状況をいち早く把握するために、通信設備が重要であったと感じる。その時に何を優先しないといけないかを判断し、即座に動くことや、住民には財産や思い出の品を諦めてもらうよう同意をとり人命を最優先にがれき除去を行ったこと。

質問② 復興時に効果的であった取り組みについて伺う

応答内容：住民とともにジオラマ作成をし、被災前の野田村を再現した。被災時に閉じこもりがちだった住民も顔を出すきっかけとなり、コミュニティの再構築ができたこと。

(受講後の感想)

津波の対策として防波堤を3重にするだけでなく、緩衝地帯として都市公園を整備し人の集まる場やイベントを行う場としていることが印象に残った。また、災害時に自分の大切な物よりも周りの人のために動いたり、差し出したりできるのは普段の関係性が重要と感じた。

【青森県八戸市美術館】

(主な質疑・応答内容)

質問：施設を生かし工夫している点について伺う

応答内容：ジャイアントルームは可動式の壁、高い天井と自由度の高い空間になっている。そのため、美術だけでなく、スポーツや音楽など自由な発想での利用が進められる。足を運びやすく、使いやすくすることで誰もが気軽にアートにふれられる特長を生かすようにしているとのこと

(受講後の感想)

美術館という一つの用途ではなく、人が集まり活動ができる場所とし、活動はそこに集まる人が考え実行するという、市民とともに作り上げ、多様なニーズをかなえられる場所づくり・活動の促しが参考になった。

【青森県おいらせ町 視察】

(主な質疑・応答内容)

質問 被災後、防災対策をする際に意識された事について伺う

応答内容：海岸部に人が行かなくても状況が分かり対策ができるように津波カメラの設置や

水門・陸閘の開閉を自動化できるように進めている。今後起こりうる巨大地震時の津波に対して防ぐことはできなくても、逃げる時間が稼げるように、回り込まなくても高台に移動できる階段や一時避難所を数か所設置した。自分の身は自分達で守るよう自主防災活動や訓練を行っているとのこと

(受講後の感想)

すべてを防ぐことはできないけど、逃げるために必要な時間を稼ぐ整備の重要性を学ぶことができた。誰かが犠牲になって危険な箇所に行かなくてもよいようにデジタル技術を活用して、人命を守る整備をされていると感じた。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

【岩手県洋野村】

- ・瀬戸市との比較

災害への備えは大きな違いがないが、海岸部であることで、津波対策への費用が必要となる。

- ・瀬戸市への反映

平時からの防災意識・協力を高める教育や組織への促しが反映できる

- ・調査において特に印象に残ったこと

過去の災害から学び、忘れずに後世に残すことの大切さ

- ・考察

自然が相手であるため実際に起こってみないと分からないことは多いが、過去のデータや、今できる事を整備、意識して訓練することが、一番重要な犠牲者を出さないことにつながることを知ることができた。キャンプなども防災の備えの確認となるため推奨すると研修で伺ったので取り入れていきたい。

【岩手県野田村】

- ・瀬戸市との比較

災害への備えは大きな違いがないが、海岸部であることで、津波対策への費用が必要となる。

- ・瀬戸市への反映

平時からの防災意識・協力を高める教育や組織への促し、通信環境整備の重要性が反映できる

復興後の名産品・観光地をアピールするパンフレットが参考になった

- ・調査において特に印象に残ったこと

ジオラマ作成を通じて過去の記録を残すとともに、今を生きる人の心のケアや人とのつながりを作っていたこと

- ・考察

体験を風化させない取り組み、災害時以外には住民の集まる場所となる公園整備など人と人のつながりで乗り越えたからこそ、人とのつながりを重要にして取り組まれている

ことを知ることができた。いざというときに力になるのは隣人であり、平時からのかかわりが重要であると考える。

【青森県八戸市美術館】

- ・ 瀬戸市との比較

新しい考え方を反映した近代的な美術館であった。

- ・ 瀬戸市への反映

今後、施設の改修を行う際には一つの目的だけではなく多くの機能を集約した設計が必要であり、人が集まる仕組みも一緒に実現できる場所となるように意識することが反映できる

- ・ 調査において特に印象に残ったこと

大きなホールだけでなく、屋外の広場、屋上含め人が集まってイベントをしやすい設計となっていたことが印象に残った。

- ・ 考察

人が集まる為には集まりたいと思える活動や、実施できる場所が必要である。結果として人が来場し、アートに触れ、その場の体験や人、美術品に思い入れができる事が将来的なまちづくりにつながる種まきとなると考える。

【青森県おいらせ町】

- ・ 瀬戸市との比較

海岸部であることで、津波対策への費用が必要となる。

- ・ 瀬戸市への反映

通信環境整備の重要性、人が行かなくても確認できる技術の利用が反映できる

- ・ 調査において特に印象に残ったこと

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の津波の想定は 24mとのことで、東日本大震災時のおいらせ町の津波の約 8mに比べはるかに高い。できる限りの対策はするが、時間を稼ぐことを重視し、高台に移動しやすい整備を重視していたことが印象に残った。

- ・ 考察

自然の驚異にあらがうことだけでなく、安全に逃げ、避ける時間を作るかという観点での整備も重要であると考える。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.iordan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5	名古屋飛行場	飛行機	片道	青森空港	693	km	37,300	円	円
年						km		円	円
10						km		円	円
月						km		円	円
11						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
青森空港から八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

50,300 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5						km		円	円
年						km		円	円
10						km		円	円
月						km		円	円
12						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
	アパホテル本八戸				0178-73-3000		13,000 円		
備考欄									
八戸市内の移動の際はレンタカーを使用する。									

小計 13,000 円

日付	出発駅	交通手段	片道 / 往復	到着駅	距離		交通費		
							運賃	特急料金	等
5	青森空港	飛行機	片道	名古屋飛行場	693	km	37,300	円	円
年						km		円	円
10						km		円	円
月						km		円	円
13						km		円	円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金		
							円		
備考欄									
八戸市内から青森空港の移動の際はレンタカーを使用する。									

バック等による割引など

小計 37,300 円

22,250 円

宿泊費 合計

交通費 合計

26,000 円

74,600 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

78,350 円